

半年以上経ってまだ7月の西表島の話かいと言われるのだが、お蔵入りするにはもったいない話題がまだあるので紹介させてもらいたい。

「うわっ！巨大ムカデだああ！」ある西表島の夜のことで、宿の近くをみんなで歩いていたとき、突然落ち葉の下からとんでもない大きさの大ムカデが飛び出してきた。20cmはあるんじゃないだろうか。我々も大層驚いたが、むこうも慌てたようで、みんなの足元をくねくねと物凄いスピードで逃げ回る。じっくり見たいけど動きが早すぎるし、捕まえるのは怖いし（ムカデのキバには毒がある）、みんなでアワアワしていたら、あっという間に側溝の方へ消えていってしまった。

このオオムカデはおそらく**トビズムカデ**という種類で、本州にも生息しているらしいが都心部ではまず見ない。東京で見かける身近なムカデといえば、公園の石をひっくり返したりしたら見つかるが、せいぜい大きくても5cmほど。太さも数mmしかない「つまようじサイズ」だが、今回出会ったこのトビズムカデは、太さも1cmほどあり、「割ってない割り箸ほどのサイズ感」だ。割り箸に21対42本の脚が生えた様子を想像してみしてほしい。それが夜の道で突然飛び出してくるのだ。人によってはトラウマになるだろう…。ちなみにムカデの漢字は「百足」だが、種によって脚の数は異なり、100本とは限らない。

巨大生物に出会えて、「いやーすごかったねえ」などとみんなで興奮と満足感に浸っていたが、話はそれだけでは終わらなかった。逃げ回ったあぐけ側溝の中へ消えていったトビズムカデの方から、**バババババババッ！！と物凄い音が聞こえてきた**。駆け寄ってみると、さっきのオオムカデの姿が！でもなんか変だ。ムカデの横から翅が見える…。え？！**オオムカデに翅が生えてる？！**…そんなわけはない。**セミを捕まえたんだ！！**一瞬状況が掴めなかったが、オオムカデがガッチリとセミを押さえつけ、もがくセミが必死に羽ばたいて大きな音を出していたのだ。

オオムカデが捕らえたこのセミは「クマゼミ」で、体長約5cmもあり、翅を含めれば7cm近くある。日本で2番目に大きいセミだ（日本最大は西表島と石垣島に生息するヤエヤマクマゼミで、クマゼミより数mm大きい）。そんな日本最大級のセミに覆いかぶさり、たくさんある脚でがっちり押さえ込んでいる。なんちゅうシーンに遭遇してしまったんだ…しばらく動悸が治まらなかった。西表島のお食物連鎖、恐るべし！



ムカデに翅が生えている？！

側溝の壁にこのように張り付いていて、パッと見ると何がどうなっているのかよく分からなかった。写真上側がムカデの尾で、下が頭。クマゼミの胴体を押さえ込んでいる。クマゼミは翅をバタバタさせてもがいていた。



クマゼミを捕らえたトビズムカデ 西表島 7月26日

写真左側の赤茶色の部分がトビズムカデの頭部とキバ。クマゼミに噛みついて毒液を注入している。写真中央にはムカデの脚の隙間にクマゼミの眼が見える。こうなってしまうとクマゼミに為す術はない。

クマゼミの羽化の様子 西表島 7月26日

上の写真と同じ日に別の場所でクマゼミが羽化していた。上の個体も羽化してまだ動きが鈍い時を狙われたのかもしれない。ムカデは飛べないのでセミを襲うなんて信じられなかったが、調べてみるとセミ捕食の観察例は他にもあるようだ。余談だが、西表島で見られるクマゼミは全部ヤエヤマクマゼミなのかと思っていたが、普通のクマゼミとヤエヤマクマゼミの2種がいることを後で知った。日本最大のヤエヤマクマゼミを見つけることを次の課題にしたいと思う。

